

表 5. 聞き取り及び標本船調査によるシャコガイの価格(昭和59年2月現在)

|              | ヒメジャコ<br>(ギョーラ) | ヒレジャコ<br>(ウルギョーラ)   | シラナミ<br>(パインジャ) | シャコウ<br>(スーギョラ)          |
|--------------|-----------------|---------------------|-----------------|--------------------------|
| <b>(食 用)</b> |                 |                     |                 |                          |
| 八重山での販売      | 円               | 円                   | 円               | 円                        |
| 仲 買          | 5,000~6,000     | 1,500~2,000         | 2,500           | 1,000~                   |
| 小 売          | 7,000~8,000     | -                   | -               | 1,500~1,600<br>(加工業者入手分) |
| 沖繩本島へ出荷      |                 |                     |                 |                          |
| 仲 買          | 8,000~10,000    | 3,000~4,000<br>(高値) | -               | 2,000~2,500<br>(台風時)     |
| <b>(食用外)</b> |                 |                     |                 |                          |
| 八重山での販売      |                 |                     |                 |                          |
| 生 体          | -               | 1,500               | -               | 1,500                    |
| 貝 殻大         | -               | 500                 | -               | (20cm以上)                 |
| 小            | -               | 250                 | -               | -                        |

⑨ シャコガイの漁獲サイズ

シャコガイは雄性先熟性の雌雄同体である。小型個体の性巣部は精巣のみであり、大型になると精巣と卵巣が混在し、再生産に寄与出来るようになる(資料12)。そのために漁獲サイズの小型化は資源の回復に大きな影響を与える。そこで以前に行なった調査の資料を整理した。

調査 I

シャコガイ漁業の中心地である石垣市の登野城漁港では採集して持ち帰ったシャコガイをむき身にして商品化する作業がおこなわれ、その貝殻は港に捨てられて、累重としている(資料13)。採集時期が新しい貝殻は殻捨て場の上に捨てられ、貝柱等の組織片が残っており、殻もきれいだ。観察では下の方の貝殻は汚れており大きいものが多い様であった。また殻長10cmを越すような貝殻は新しいものではほとんど見られず、汚れているものか下の方のものであった。昭和55年6月6日に前述の殻捨て場から組織片のまだ残っているヒメジャコの殻を3ヶ所から合計65個体採取し、試験場に持ち帰り、真水に浸して組織片を取り除いて乾燥させた後、殻長・殻高・殻巾と殻の乾燥重量を測定した。結果は図5に採取した個体と昭和56年から58年まで水産試験場八重山支場で種苗生産用親貝として使用した個体の度数分布を示した。採取個体と種苗生産用親貝の度数分布の集中点は離れており、採取した個体の度数分布は5~6cmに集中しており、種苗生産用親貝は8.5~9.5cmに多く集まっていた。採取個体の殻長の平均は5.99±1.37cmであり、最小殻長は4.30cmであった。また種苗生産用親貝は平均9.63±0.86cmで最小は8.12cmであった。調査年月日の石垣市のシャコガイの漁獲量は昭和56年1月現在の資料で表わされており31トンと資料10中で下から2番目を示している。

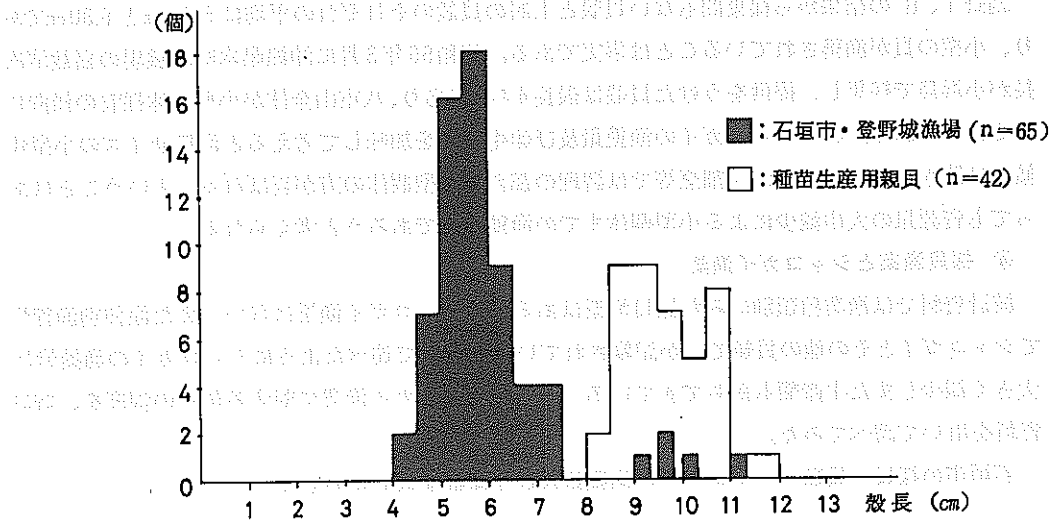


図5 石垣市・登野城漁場のヒメジャコ貝殻の度数分布

調査 II

昭和56年7月24日に八重山支庁の諸見里聡普及員によって調査Iと同所から上層(表面)と下層(表面から約20~30cm下)に分けて採集され、試験場に持ち込まれたヒメジャコ貝殻の度数分布を調べた。採集個体数は上層66個体、下層46個体であった。結果は図6に示した。上層では5.5~6.0cmに集中点があり、下層では7.0~7.5cmが9個体で最も多く、下層は7.0~7.5cmより大きい方によく分布し、上層は小さい方に分布していると言える。上層の平均は6.30±1.12cmであり最小個体は3.39cmであり、下層は8.17±1.88cmで最小個体は5.06cmであった。上層と下層の平均の差が1.87cmであった。

上層の貝殻と下層のそれとの間に海での採集年月にどの程度の時間差があるかは不明であるが、漁獲サイズが小型化してきているかがうかがわれる。

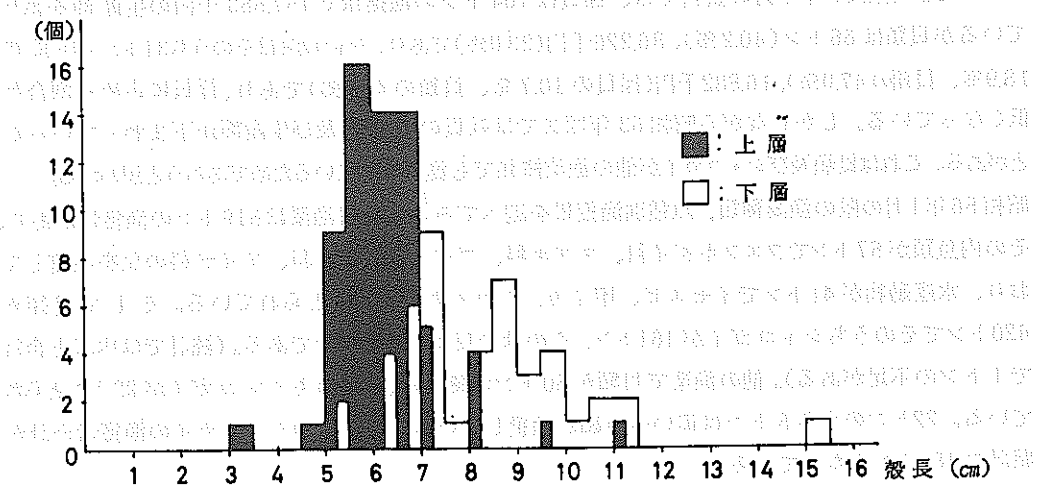


図6 石垣市・登野城漁場のヒメジャコ貝殻の度数分布